

運輸交通部会長報告

1. 会議名 第2回部会総会
2. 日時 2025年11月10日（月）14：30～16：00
3. 場所 当所7階ホール80
4. 出席者 27名
5. 懇談 テーマ「『地域の足』を守る、
まちづくりにおける自動
運転バスの活用」
講師：(株)マクニカ
イノベーション戦略事業本部 谷口 竣一 氏
6. 協議 任期満了に伴う正副部会長の選任について
三浦征善氏（秋印(株)／代表取締役）を部会長に新任
したほか、新任の船木一美氏（秋田海陸(株)／代表取締役社長）を含む13名を副部会長として選任した。
- 

- 当社は新横浜に本社を構える創業53年目の半導体商社で、自動運転に関するスマートシティ＆モビリティ事業への展開は、コロナ禍であった2020年から取り組みを始めた。
- 自治体向けにはOn-load（公道）での自動運転EVバスの運行や、企業向けにはOff-load（私有地）での建設機械等の特殊車両の自動化に取り組んでいる。
- 当社で採用している自動運転EVバス車両は、フランスのNavya社の車両。当社とNTT西日本で100%出資しており、運転席がなく、目的地を設定すると周囲の安全を見て自分で考えながら公道を20km未満で走行する。
- 2024年から低速車両での実証実験を開始しており、2026年度中にはレベル4での稼働にまで持っていきたい。2027年度以降は、低速・少人数車両で蓄積したノウハウを組み込み、中・大型バスの自動運転を目指していきたい。



- 当社における自動運転の支援実績は、定常運行は累計6地域、実証運行は累計50地域、今年度実証支援予定地域は25件となっており、日本トップである。
- 北海道岩見沢市、当別町では、積雪・除雪により道路端の雪壁が高くなるとセンサーが機能しなくなる場合があるため、除雪業者に適切な除雪方法について説明し協力してもらっている。
- 茨城県常陸太田市は当社初の定常運転の実績地であり、2024年から定常運行を開始。2025年からは2台目を追加し、国内で他に例がない365日運行を実施。一部国道も走行し、駅・市役所・ショッピングモール・住宅エリアを含む片道約7km強を1時間程度で運行。車庫には太陽光パネルと蓄電池を設置しており、運行は全てこの電力で賄っている。
- 東北での実績はまだないため、試乗会等のイベントや自治体セミナーなどを実施しており、10/4-5には男鹿市の男鹿駅敷地内で試乗会を実施し、2日間で584人に乗車体験いただいた。



<冬期の岩見沢市内を走行するEV自動運転バス>

<質疑応答>

- ・ 北海道で運行していると聞いて驚いている。雪の課題は多いのか。
→1年目は雪壁を高くしすぎて自動運転が不可になってしまったり、シャーベット状の雪でスリップしたりと課題が多くあったが、そのような経験を積み、最近では対策を事前に行つたうえで運行ができる状態まで来ている。
- ・ 普通自動車のセンサーも吹雪の際に反応しなくなることがあるが、この車両についてはいかがか。
→吹雪時の雪や、前方車両が跳ね上げた雪なども一瞬だけ障害物と認識してしまう。関西では巨大なトンボも障害物と認識した。完全に動かなくなった際は車両内オペレーターが手動に切り替え、落ち着くまで運行した後に自動に戻すといった対応になる。必要に応じて遠隔監視室からサポートを実施。
- ・ 昨今の熊被害のように未知の動物に遭遇した場合、どのような対応となるのか。
→現時点では熊の対策はできていない。現状は熊がいなくなるまで停車する状態となる。